

ARTBAY TOKYO ART FESTIVAL 2022

どこまでも広がる空と海をのぞむ、臨海副都心。かつて海だったこの場所は、人びとの創造力によって生まれ、未来へ向かう試みの場であり続けています。この地の歩み、今、そして未来をつないでいくために、このエリアで初めてとなるアートフェスティバルを開催します。2022年のテーマは「NEW SCALE」。これまでに見たことのない風景を、アーティストとともに、ここを訪れる一人ひとりの想像力で作り上げていきます。臨海副都心を大きな舞台につくられる作品を通じて、想像し、共有し、語り合う。一連の体験のなかで一人ひとりの「NEW SCALE-世界を見る新しいものさし-」が浮かび上がります。

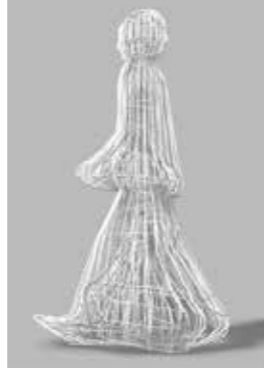
Artwork

A1 「THE PRINT- 痕跡」 レアンドロ・エルリッヒ



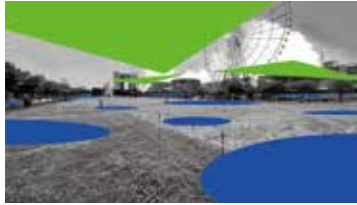
すべてが人工的につくられた地盤と景観に取り囲まれる都市、お台場。過去の名も知れぬ多くの先人の英知、ひらめきと、努力の結晶で、同じように現代の都市の多くは成り立っています。今回制作される作品のテーマは「指紋」。それは「個」のアイデンティティであるとともに、「人類」という種族の自然への介在の痕跡でもあります。しかしその痕跡ははもはや辿ってもいままやその源流や本来の目的を解き明かせない迷路のようなもの。この作品は私達が切り崩してきたけれども、それでも強く生きようとする自然との関係性もテーマにシフト、人類が探し求めた見えない目的を体験する作品であり、私達の新たな出発点について考えてもらおう作品です。
*企画協力：ArtTank (小平悦子 + 近藤俊郎)

A2 「Heading」 後藤 映則



大きさの違う白い立体物が回転している。よく見ると人が全方向に向かって歩いている。作品の原型は新型コロナによって物理的な移動や活動が困難になったときにつくられた。どのような状況でも人は動き続けようとする。動いた先で何が起るかを事前に知ることはできないが、前に進むとする。この多様な世界において、台座が方位を表すクロックポジションの形をしているこの作品は、今我々はどこを歩いているのか、どこへ向かおうとしているのか、その行く先の方向や選択肢を示そうとしている。周りには、作者が訪れた世界各国の交差点で撮影した歩く人々が取り込まれた小さな作品が点在している。彼らも同じように、どこかに向かって歩いている。その背景にある意志や共通点が、多くの人々が行き交う臨海副都心と重なり、光と共に浮かび上がる。

A3 「Territory Gone Wild 野生のテリトリー」 ULTRA STUDIO



夢の広場は芝生に覆われ、1kmのシンボルプロムナードが続く。初めて広場を訪れたとき、芝の一部は囲われ、散水養生をする作業員のほかに人影はなかった。その光景は時折公園で目にする「入れない芝生」を思い出させる。駅から来る人々はどこを指して広場を迂回した。広場の周りの看板や植え込み、銅像なども、囲いと相まって入りづらさを作っているのだろうか。囲いは場所を二分し、内側を切り離して意味を変えてしまう。その特徴をひっくり返すことで、広場に新しい領域を生み出せないだろうか。5月から強い日差しの下、長大なプロムナードを歩くと、灯台のような街灯、日を浴びるベンチ、控えめな散歩コースのサインなど、孤立したオブジェ群と遭遇した。それらも囲ってしまえば、違う意味が生まれるのではないか。唐突に出会う変化したオブジェ群が、プロムナードを繋ぐ領域を作るだろう。この臨海副都心に野生のテリトリーが出現する。

A4 「臨海副都心ユニバース」 高橋 信雅



2021年10~11月、高橋信雅「ARTBAY HOUSE」の壁面に描いたのは、ベリーや江川太郎左衛門英龍、街並みに動物、宇宙人やロボット、馴染みのあるものから浮世のものまで、古今未来の臨海副都心と、旅立ちの日の出。建築家の萬代基介氏が8つのキューブをコンセプトに設計した「ARTBAY HOUSE」が解体され、8つの板(モノリス)となり宇宙へ飛び立つ瞬間を描きました。今回の作品は「古今未来臨海副都心」のアフターストーリーとして、飛び立った8つの「モノリス」が遥か宇宙の彼方で「空白」を彷徨いながら想いは街のカタチを留め、再び結合する時を待っている姿を描きます。



パブリックアート 臨海副都心エリアには世界的なアーティストによるパブリックアートがたくさんあります。屋外にある作品はいつでも誰でも鑑賞できます。	1 ダニエル・ビュラン 「25のポルティコ - 色彩と反映」	2 樋口正一郎 「ねじりはちまき」	3 福田繁雄 「瀬風公園 (シー・アズ・ブルー) 島の日曜日の午後」	4 クレス・オルデンバーグ 「Saw, Sawing (切っている鋸)」	5 福田繁雄 「あーん」	6 マルク・クチュリエ 「自由の炎」
7 長沢英俊 「七つの泉」	8 内田晴之 「ROUND STRUCTURE 1995」	9 斎藤史門 「重力の無い社」	10 Lee Ufan 「頂」	11 笠原恵実子 「UNTITLED -Three type #3」	12 眞板雅文 「碧空の花」	13 杉山惣二 「'96 美神の門」

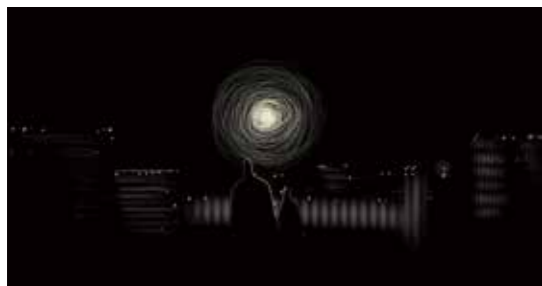
Public art

Program

P1 「City Echo」 吉添裕人

幼い頃、お台場が見渡せる下町に暮らしていた吉添裕人が、何かを念じたり、想ったりしながら夜景の中に見た都市の「やまびこ」。この作品はその原風景の再現そのものであり、吉添裕人というフィルターを通して観客と都市をつなげる表象を生み出す装置です。

開催日：9月24日(土) 18:00~20:00 予定
予備日：9月25日(日)
*天候によって開催日は変更になる可能性があります。



P2 「おもいつきの声と色」 小島聖+平松麻

思いついたものを心に留め、声と色をのせて形を変化させていく時間はワクワクがいっぱいです。ときにひとり、ときにふたりで、ときにみんなで、こどももおとなも一緒に。小島聖と平松麻が始めた声と色の実験室。この場所で語られる声を聞いて、そこから感じる世界を一人一人が自由に描きます。最後にその絵を集めて紙芝居にして、この場所ではかたられない物語が完成します。*予約詳細はウェブサイトをご覧ください。



P6 ストリートピアノ 「SOUND OF YOU」

誰でも弾けるピアノ演奏の場を創り、音楽でもイベントを彩ります。視覚的なアートに留まらない体験を音楽を介して創出します。実施場所：アクアシティお台場 3F Air BicCamera 前広場



P3 「パブリックアート×トートバッグ」 小熊千佳子+NPOアート・コミュニケーション推進機構 PARC

臨海副都心のパブリックアートの形、色を感じながらトートバッグに付けるオリジナルデザインのパックチャームを創るワークショップ。創作したバッグチャームをつけた大きなバッグを携える人々の姿がアート作品そのもの、NEW SCALEな風景をつくります。*予約詳細はウェブサイトをご覧ください。



P7 ARアート体験 「TOKYO STATION AR ART PROJECT revival for ARTBAY TOKYO」 JR東日本 東京感動線

山手線を起点に、心豊かな都市生活空間の創造を目指し、食や農、アートなど様々なプロジェクトを進める JR 東日本 東京感動線。2020年11月に東京駅で実施した「TOKYO STATION AR ART PROJECT」が臨海副都心エリアにリヴァイバルし、NEW SCALEな風景を生み出します。(コンテンツデザイナー：中田拓馬、山岸遥/コンテンツ協賛：JR東日本/企画協力：KDDI、SoVeC)



P4 ワークショップ&試乗体験 「ART JINRIKISHA」 イロハネ+時代屋

乗り物の原点・人力車を彩り、時代を超えた「ART JINRIKISHA」を生み出します。材料には廃材やリユース素材を取り入れ、参加者の発想やアイデアを通して羽のアートとして生まれ変わります。ワークショップ作品と一体となった試乗体験では高くなる視線の変化や風を体感することができます。*予約詳細はウェブサイトをご覧ください。ワークショップ【事前予約制】：乃村工芸社本社 試乗体験：夢の広場 *雨天時は乃村工芸社本社



P8-1 プロジェクションマッピング 東京ビッグサイト 9月16日(金)・25日(日) 18:30頃~19:00頃

P8-2 プロジェクションマッピング 「SYNAPSE 一街をつなぐものがたり」 乃村工芸社

乃村工芸社の社屋全体が巨大な SYNAPSE となり様々な表情を創り出します。それは「人と人」「人と街」「人と社会」が「つながる事」の大切さを伝えるメッセージです。9月16日(金)~25日(日) 各日 18:30頃~21:00頃 *17日(土)・18日(日)・25日(日)のみ 18:30頃~20:00頃



P5 アート鑑賞ツアー【事前予約制】 「3つのインクルージョン鑑賞プログラム」 分身ロボット OriHime+NPOアート・コミュニケーション推進機構(PARC) 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

会場に来られない人もアート鑑賞に向かう機会を持っていない人も、誰もが参加できる鑑賞プログラム。アテンドするアートコミュニケーターとの対話や先端技術を活用した鑑賞体験は、アートを介して様々な自由な視点や思いを共有します。①分身ロボット OriHime とめぐるツアー②ペービーと一緒にめぐるツアー③見えない人も見える人も一緒にめぐるツアー*予約詳細はウェブサイトをご覧ください。



P9 フォトリレー 「Meet the NEW SCALE」

対象アートのうち3か所を巡り、3つの作品を「#Artbayfes2022」のハッシュタグをつけてSNSに投稿すると、先着でトートバッグをプレゼント。【対象アート】マップ上の赤い○の作品
Artwork A1 A2 A3 Program P7
Public art 1 2 3 4
【トートバッグ受け渡し会場】乃村工芸社本社 入口前付近 ※数に限りがあります(なくなり次第終了)



ARTBAY TOKYO ART FESTIVAL 2022

アートを巡ると、先着で
“オーバースケールトートバッグ”がもらえます！

対象の9つのアートのうち
3つのアートを巡る

3つのアートすべてを
#Artbayfes2022
をつけてSNSに投稿し、
受け渡し会場の
スタッフに見せる



※対象アート、トートバッグ受け渡し会場は中面マップをご参照ください
※SNS投稿が難しい場合は3つのアートの写真をスタッフにご提示ください



ARTBAY

TOKYO ART FESTIVAL 2022

2022.9.16-25

Artist/Collaborator

レアンドロ・エルリッヒ

Leandro Erlich
ペノスアイレスをベースに国際的に活動する現代アーティスト。日本でも数多くの作品が紹介されているが、2017年に森美術館で開催された個展は様々な世代の観客を集める人気のある展覧会となった。

吉添 裕人

Hiroto Yoshioze
空間ディレクター / デザイナー。空間デザイン会社を経て独立後、都市開発や商業環境に特化した空間デザイン業務に従事。2017年「PIXEL」、2021年「hymn」をはじめとする発表作品で多くの受賞歴。

NPOアート・コミュニケーション推進機構 (PARC)

東京都美術館と東京藝術大学の共催事業においてアート・コミュニケーションの任期を終えた有志の任意団体が基盤。人びとの心の豊かさを育むアートを介した対話や創造の場を社会に広げるため活動している。

視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

スタッフ12名(視覚障害者7名、聴覚者5名)により、全国の美術館や学校で目の見える人、見えない人が言葉を介して「みること」を考える鑑賞プログラムを企画運営。2020年以降は主にオンラインを通して活動。

後藤 映則

Akinori Goto
ペノスアイレスをベースに国際的に活動する現代アーティスト。日本でも数多くの作品が紹介されているが、2017年に森美術館で開催された個展は様々な世代の観客を集める人気のある展覧会となった。

小島 聖

Hijiri Kojima
近年、映像作品に出演する一方、舞台役者としての評価も高く、話題の演出家の舞台に多数出演し、新たな魅力を発揮している。また著書に「野生のベリージャム」がある。

イロハネ

東京藝術大学で生まれた「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクト。こどもも大人も、障がいの有無を超えて誰でも取り組める創作・表現の場をつくることを目的とした活動を行う。

YAMAHA Love Piano

ペノスアイレスをベースに国際的に活動する現代アーティスト。日本でも数多くの作品が紹介されているが、2017年に森美術館で開催された個展は様々な世代の観客を集める人気のある展覧会となった。

ウルトラ・スタジオ

ULTRA STUDIO
向山裕二、上野有里紗、笹田侑志からなる建築コレクティブ2013年に結成日本とヨーロッパで経験を積み、2018年より東京をベースに設計活動を開始。都市文化を批評的にとらえなおしつつ、建築的介入を創り出す。

平松 麻

Asa Hiramatsu
油彩画をメインに展覧会での作品発表を軸に活動する。自身の体内に実在する景色を絵画にし、「空」をモチーフに据えた心象風景を描く。雑誌・書籍・新聞などの挿画や執筆も手がける。

時代屋

浅草で初めて人力車を走らせた人力車のパイオニア。観光地浅草の活性化へ貢献。歴史の伝承と地域文化遺産の保護・保存への協力、人力車専用のスロー「パリアフリーリキシャステーション」の開発も行う。

JR 東日本 東京感動線

向山裕二、上野有里紗、笹田侑志からなる建築コレクティブ。2013年に結成。日本とヨーロッパで経験を積み、2018年より東京をベースに設計活動を開始。都市文化を批評的にとらえなおしつつ、建築的介入を創り出す。

高橋 信雅

Nobumasa Takahashi
桑沢デザイン研究所卒業。東京と鬼ヶ島を拠点に国内外で活動しているアーティスト。線描による表現は、日本では「洋」を海外では「和」を感じさせる独自の世界観を生み出している。

小熊 千佳子

Chikako Oguma
アートディレクター/グラフィックデザイナー。グラフィックデザインを軸に幅広く活動する。国内外のポスター展に招待参加多数。海外美術館にて作品收藏。出版活動 YOU ARE HERE 主宰。

分身ロボット OriHime

カメラ・マイク・スピーカーが搭載され、インターネットを通して操作する分身ロボット「OriHime」。生活環境や身体障害などによる移動の制約を克服し、その場にいるようなコミュニケーションを実現できる。

乃村工務社グループ

桑沢デザイン研究所卒業。東京と鬼ヶ島を拠点に国内外で活動しているアーティスト。乃村工務社グループ。線描による表現は、日本では「洋」を海外では「和」を感じさせる独自の世界観を生み出している。

Schedule

イベントスケジュール ※イベント時間 10:00-19:00		9/16 (金)	9/17 (土)	9/18 (日)	9/19 (月・祝)	9/20 (火)	9/21 (水)	9/22 (木)	9/23 (金・祝)	9/24 (土)	9/25 (日)
アートワーク	A1 THE PRINT - 痕跡					期間 全日					
	A2 Heading					期間 全日 (10:00-20:00)					
	A3 Territory Gone Wild 野生のテリトリー					期間 全日					
	A4 臨海副都心ユニバース	※施設営業時間	9:00-17:00?			期間 全日 (9:00-17:00)					
インスタレーション	P1 City Echo									18:00-20:00	予備日
	P2 おもいつきの声と色				WS2回 10:00-12:00 14:00-16:00						
ワークショップ 【事前予約制】	P3 パブリックアート x トートバッグ				全2回				全2回 11:00-13:00 14:00-16:00	全2回 11:00-13:00 14:00-16:00	全2回 11:00-13:00 14:00-16:00
	P4 ART JINRIKISHA (ワークショップ)		WS 10:30-13:30								
試乗体験	P4 ART JINRIKISHA (試乗体験)		10:00-18:30	10:00-18:30							
	P5 ①分身ロボット OriHimeとめぐるツアー	1回	1回								
アート鑑賞ツアー 【事前予約制】	P5 ②ベビーと一緒にめぐるツアー						全2回 午前/午後			全2回 午前/午後	
	P5 ③見えない人も見える人も一緒にめぐるツアー							2回			
ストリートピアノ	P6 SOUND OF YOU	※施設営業時間	9:00-17:00?			期間 全日					
ARアート体験	P7 TOKYO STATION AR ART PROJECT revival for ARTBAY TOKYO					期間 全日					
プロジェクションマッピング	P8-1 東京ビッグサイト	18:30-19:00									18:30-19:00
	P8-2 SYNAPSE -街をつなぐものがたり-	18:30-21:00	18:30-20:00	18:30-20:00	18:30-21:00	18:30-21:00	18:30-21:00	18:30-21:00	18:30-21:00	18:30-21:00	18:30-20:00
フォトラリー	P9 Meet the NEW SCALE					期間 全日 (トートバッグお渡し場所: 乃村工務社本社/なくなり次第終了)					
オンラインコンテンツ		イベント会期中、アート作品展示の様子を動画でご紹介します。詳細はウェブサイトをご覧ください。									

お問い合わせ: ARTBAY TOKYO アートフェスティバル2022事務局
info@artbayfes2022.com

主催: アートプロジェクト実行委員会
東京都港湾局、(株)東京臨海ホールディングス、(一社)東京臨海副都心まちづくり協議会、東京港埠頭(株)、(株)東京ビッグサイト、日本科学未来館
アートアドバイザー: (公財)彫刻の森芸術文化財団
企画・運営: (株)乃村工務社
運営事務局: ARTBAY TOKYOアートフェスティバル2022事務局

協賛・協力 (順不同)

ARTBAY TOKYO アートフェスティバル2022 メインビジュアル

イベントのテーマ「NEW SCALE」は、アートの力や想像力を通じてこれまでにない視点を見出し、新しい価値観を都市の中に築いていくことを意図しています。その象徴として、現実では実現不可能な形「トロンプルイユ」(フランス語で「目を騙す、錯覚を起こさせる」の意。転じて「だまし絵」)をモチーフに、カラフルなグラデーションには臨海副都心エリアに存在する海・植物・太陽など自然物の魅力、さまざまな人が混在する多様性の意を込めています。



臨海副都心エリアが、多彩なアートで染まる10日間

レアンドロ・エルリッヒ 後藤 映則 ULTRA STUDIO 高橋 信雅 吉添 裕人

臨海副都心エリア
シンボルプロムナード公園内
花の広場・石と光の広場 (東京都江東区有明3-7)
夢の広場 (東京都江東区青海1-3)
東京国際クルーズターミナル (東京都江東区青海二丁目地先)
(株)乃村工務社本社 他 (東京都港区台場2-3-4)

ウェブサイト: <https://www.artbayfes2022.com/> 公式 SNS: Twitter @artbaytokyo / instagram @artbayfes2022



NEW SCALE